

T 彩都総合研究所 -CUBE News Letter



誕生しました！ 彩都総合研究所 <T-CUBE>

CONTENTS

- ・ T-CUBE 誌上ツアー 連載第1回「ホール」
アース環境サービス株式会社 代表取締役社長
- ・ 彩都人 Vol.1 松本 吉雄
- ・ 彩都の四季 —ビオトープ通信—
- ・ 今月の1枚

創刊号

WINTER
2016

T-CUBE 誌上ツアー

2016年1月、アース環境サービスの新研究所「彩都総合研究所T-CUBE」が竣工した。

「T-CUBE」の「T」はTwin、つまり、二つの立方体(CUBE)が重なってできた構造を指している。

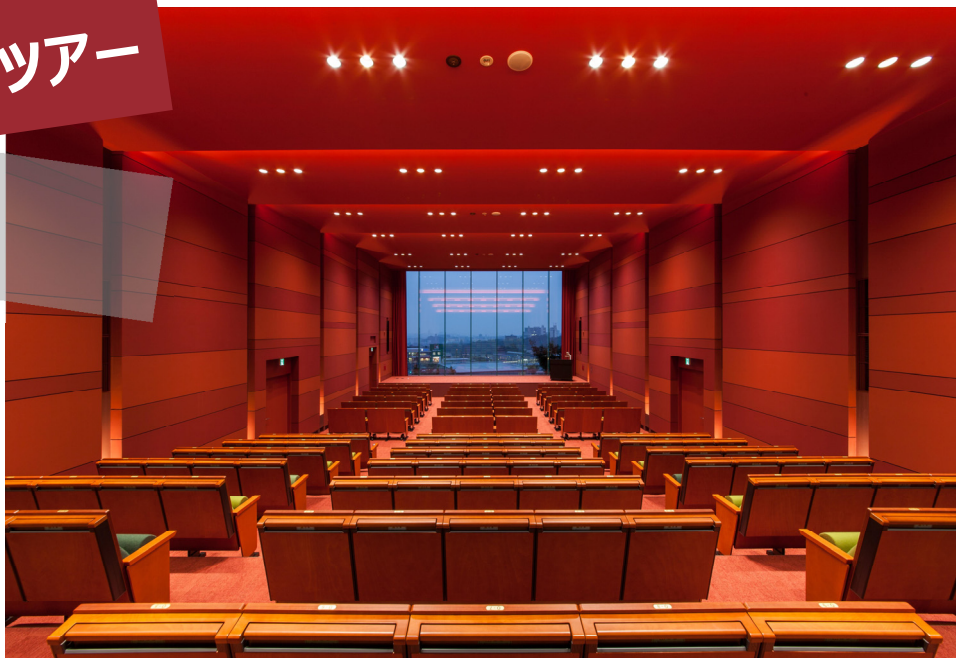
大塚グループのモノづくりの中から生まれたアース環境サービスは、医薬品製造のGMPのノウハウを背景として日本の衛生管理をリードしてきた。ライフサイエンス分野の研究・技術開発のための一大拠点「彩都」に竣工した研究所は、“PIC/S GMPにも準拠可能な衛生管理システムの構築・提案”を目的としている。

「彩都総合研究所T-CUBE」とはどのような施設なのか。その中で何が行われ、そこにお迎えするお客様にどのようなイノベーションをもたらすことができるのか。「誌上ツアー」の中で紹介していきたい。

次回予告

「医薬品製造模擬施設」

様々な環境を再現できる実験・実習フィールド医薬品製造模擬施設とは…？



T-CUBEのテーマカラーの1つである「あかね色」を基調としたホール

連載第1回「ホール」

トレードマークである 赤い四角のフレームの秘密？

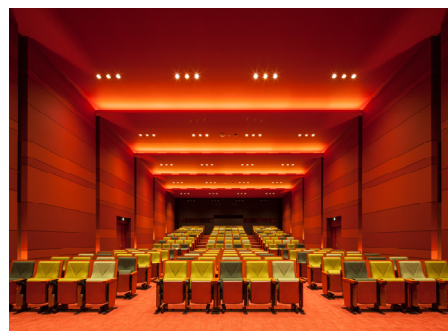
第1回は、彩都の街の新しい顔となった「彩都総合研究所T-CUBE」のトレードマーク、大きな赤い四角のフレームの秘密を紹介したい。

「研修」に特化した機能を充実

外観からは建物を東西に貫いたようにも見えるこのフレームの内部は、「これまでにない画期的な研修サービス」も提供するメインホールだ。モダンな内装が目を引くが、機能的にも「研修用ホール」としての機能に特化した様々な特長を備えている。300インチの大画面と200席の客席。全ての客席には研修の受講に便利な収納式デスクが備えられている。講師が立つ演壇ステージは昇降式。前方の客席は取り外すことができ、広いスペースを使ったワークショップなど、研修の形態に合わせてフレキシブルなセッティングが可能だ。また、ホール後方には大規模な国際カンファレンスを開催するための通訳ブースを備えている。

大塚グループ発祥の地、 徳島鳴門へとつづく景色

圧巻は、全面開口の大きな窓からの眺望だ。彩都の街が一望でき、その先には大阪の中心部、大阪湾が広がる。天気の良い日には、明石海峡大橋から淡路島を經由し、更に大鳴門橋で徳島へと続く景色を望むことができる。徳島鳴門は大塚グループ発祥の地。アース環境サービスの衛生管理支援は、大塚グループの医薬品GMPが基になっている。大塚グループの理念が「彩都総合研究所T-CUBE」の中で新しい芽を出し、今までにない画期的な研修サービスが育っていく。これから開催される様々な企画に、たくさんの方のご来場を期待したい。



シートにはコーポレートカラーのグリーンを使用



彩都総合研究所が つなぐ、 コミュニケーション

彩都人 Vol.1

アース環境サービス株式会社

代表取締役社長

松本 吉雄

新研究所設立にかける「思い」

—なぜ、彩都総合研究所を設立することになったのでしょうか。

きっかけとなったのは、総合分析センターの拡張プランです。元々、千葉県鎌ヶ谷市と、大阪府大東市に分析の拠点(総合分析センター東日本/西日本)がありました。会社の発展、お客様からのご依頼の増加に応えるために、分析の拠点を大きくする必要が出てきました。

新研究所の設立にあたり、いろいろな研究所を見学させていただきました。また、「彩都ライフサイエンスパーク」という場所との出会いも研究所のコンセプトに大きな影響を与えてくれました。彩都は、多くの製薬企業、バイオテクノロジー関連企業の研究所が集まる場所です。分析拠点を拡張するだけでなく、もっと「『研究所らしい』研究所にしたい」という思いが強くなり、現在の彩都総合研究所が誕生しました。

—彩都総合研究所に期待することは何でしょうか。

分析機能の拡充はもちろんですが、新たな2つの機能を持たせました。

一つ目は、研修機能の充実です。実際にお客様の工場に訪問する担当者の能力はサービスの品質に大きく影響します。彩都総合研究所はGMPに準拠した工場を模した施設で、座学のみならず実践的な演習を行えるようにしました。ここで専門的な研修を受けた社員が、環境ドクターとしてお客様の現場に訪問し、圧倒的な技術力でご支援を行う、これがアース環境サービスの近未来です。また、社員のみならずお客様の研修も行うことができます。最新鋭の研究所でいろいろ刺激を受け、お客様の工場の衛生管理が進化するきっかけにして頂きたいと願っています。

もう一つは、エビデンスを提供できる研究施設です。これまでも多くの得意先で総合環境衛生管理のサービスをご提供してきました。元々、科学的根拠に基づいたサービスにはこだわってきましたが、最先端の研究所ができたことで「なぜ我々の提案は良いのか」ということを「長年の経験」などではなく、根拠を具体的なデータで示して説明できるようになりました。また、新しい知見の発見、それに基づく新技術の開発なども加速していくでしょう。

—まだ稼働したばかりの彩都総合研究所ですが、将来に向けて一言を。

アース環境サービスとしてはお客様をお迎えできる初めての施設です。お客様、社員、共同研究先の研究者など、様々な人々が交流し、アイデアを結合させて、成長して世界へ広がる。次のステージへ導く施設にしていきたいです。

PICKUP! セミナー

特におすすめのセミナーをご紹介します!

3月22日(火)~23日(水)開催

PIC/S GMP関連ワークショップ ②

「医薬品品質システム解説
及び品質マニュアル演習」

平成26年7月1日の日本のPIC/S加盟により、国内企業及び行政は世界的なGMP管理レベルを確保しようとしています。約5年前に発出されたPQSの構築が各製薬企業の課題となっています。「PIC/S GMPとの6つのギャップ」とも深く関連することから、速やかに構築する必要があります。

中でも品質マニュアルの準備に関しては、企業自身がその不備を認識されているところであり、企業の品質専門職の役割はますます重要になっています。受講者の皆様はどなたも、品質に対する姿勢と事業パフォーマンスの強化に繋がる品質システムの構築・監視・改善の方法を学んで頂けます。

上記以外にも、医薬品分野を主な対象として、専門家向けの実践的なセミナーを多数企画しております。

詳細は、弊社ホームページをご覧ください。
<http://www.earth-kankyo.co.jp/>

<出展のお知らせ>

2月24日(水)~26日(金)開催

インターフェックス大阪

「二酸化塩素ガスによる除染システム」、「再生医療施設の衛生管理」、「彩都総合研究所」の3つのテーマに基づいて、衛生管理の支援サービスをご紹介します。また、製品・技術セミナー、ブース内セミナーも実施します。

会場：インターフェックス大阪
弊社ブース：**9-69**

公式ウェブサイト：
<http://www.interphex-osaka.jp/>

ビオトープ通信



BIOTOPEの生物

スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビ
タキ、ホオジロ、シジュウカラ、ハシボソガ
ラス、キジ

ナミアメンボ、マツモムシ、コムズムシ、マツ
モ、メダカ、ヌマエビ
ツチイナゴ など



ツチイナゴは
成虫で越冬する

2015年11月撮影

皆さんは「ビオトープ」という言葉をご存知ですか？最近ではかなり一般的になってきており、目や耳にすることも多くなってきました。ビオトープとは、「生命：バイオ bio」と「場所：トポス topos」の合成語で、生物の生息空間のことを言います。

ここ彩都総合研究所にもビオトープが造られています。ビオトープの中心の池は、極力自然のままの姿を見て頂けるように雨水を利用し、その周りにはこの地域に自生する植物が植えられています。池の最初の住人として、ヌマエビとメダカが入れられた後は、さっそくマツモムシが飛来し、我が物顔に泳いでいる姿を観ることができました。マツモムシはカメムシの仲間で、背泳ぎで泳ぐ水生の昆虫です。

完成からまだ3カ月しか経っていませんが、彩都総合研究所には様々な鳥が遊びに来ていることに気がつきました。ジョウビタキは冬に日本に渡ってくる渡り鳥で、背中の白い模様が着物の紋付きのように見えます。木の枝や地面に止まっているのですが、警戒心が弱いのか、かなり近づいても逃げようとしません。また最近では日本の国鳥、キジの若雄の姿をとらえることができました。

このビオトープはまだ生まれただけです。今後、季節を巡るごとに生態系が充実していき、様々な生き物が定着、成長していくことと思われます。その様子は、このビオトープ通信を通じて、定期的に皆様にお知らせする予定です。ぜひ楽しみに…！

今月の1枚 <竣工式>

大塚グループを始め関係各社列席のもと、彩都総合研究所の竣工式が1月21日(木)に行われました。

当日午後からは、彩都ライフサイエンスパークの近隣企業、大阪医薬品協会、大阪府バイオヘッドクォーターの方々をお招きした見学会も実施され、彩都総合研究所は名実ともにスタートを切ることになりました。



お問合せ先

アース環境

アース環境サービス株式会社

Earth Environmental Service Co., Ltd.

彩都総合研究所

〒567-0085

大阪府茨木市彩都あさぎ 7-11

TEL : 072-643-0640 (代表)

Webサイトもご覧ください:

<http://www.earth-kankyo.co.jp/>

発行日 2016年2月5日